

平成22年6月29日

水と人々の暮らしとのかかわりの大切さを伝える副読本『水土里のパイオニア—人々の暮らしと水とのかかわり—』を発売—大学院生と学部生による、ESD（持続発展教育）用地域副読本完成—

水問題を切り口としたESD（持続発展教育）のための地域に根ざした副読本づくりの取り組みです。2006年度『水のパイオニアⅠ—香川・日本・世界—』、2007年度『水のパイオニアⅡ—ふるさと香川から未来へのねがいをこめて—』、2008年度『水のパイオニアⅢ—水と緑とわたしたち—』を発売してきました。2009年度から水と土と里に関わる問題も扱えるようにと考え、書名を『水土里のパイオニア』に変更しました。2008年度までは大学院生だけで作成していましたが、2009年度から学部生も加わっての副読本づくりとなりました。

本書は、人の手のひらほどになったニルスが、ガチョウモルテンに乗ってスウェーデンを旅する地理書『ニルスのふしぎな旅』にあやかり、二人の少年が水鳥の背に乗り、日本一の農業用ため池満濃池から日本一の湖琵琶湖、そして琵琶湖と同じ古代湖であるビクトリア湖へと旅をしつつ、水と人々の暮らしとの関わりを見ていく物語仕立ての読み物教材となっています。ノーベル賞作家ラーゲルレーヴが現地調査をし『ニルスのふしぎな旅』を書いたように、満濃池や琵琶湖へ現地調査に出向き、その成果を教材化して授業にかけ有効性を確認してまとめました。持続可能な社会の在り方についての考えを深める教材として、社会科、総合的な学習の時間、環境や地域に関する学習等で活用できると考えています。

1. 活用方法

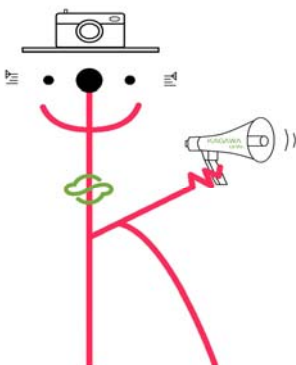
水問題を切り口にしてESD（持続発展教育）そのものを扱う場合は勿論、総合的な学習の時間（例えば、環境学習、まちづくり学習、グローバルな問題の学習）、小学校4年生社会科の水の学習や中学校社会科、高等学校現代社会や地理の学習などに役立ちます。また、読み物としても活用可能です。

2. 特徴

- ① 全国的に珍しい大学院生と学部生により作成された副読本であり、継続して発売しています。
- ② 香川県で話題となる水は、水不足だけでなく、居住や食料など私たちの暮らしとのかかわりや、水問題は、地域問題であるだけでなくグローバルな問題でもあることに気付かせる構成となっています。
- ③ 新しい学習指導要領にも導入され、今後確実に現場に実践が求められるESD（持続発展教育）のための子ども向けの教材です。
- ④ 教員養成に求められている教師になるための力量（教材開発力、授業構力等）を形成する試みです。
- ⑤ 今話題となっている教師教育における著作権教育の視点があります。
- ⑥ 発売した副読本を活用し、教育実習直前の3年生が附属中学校で飛び込み授業をし、その成果を踏まえ高校生向けに修正した授業を8月9日のオープンキャンパスでも行います。

3. 発行部数 1,000冊

4. 編集・発行 香川大学教育学研究科社会科教育専修生及び学部生有志による「香川県探検・発見・ほっとけん隊」 ※県内の希望する学校や教員には無料配布いたします。それ以外は要相談。問い合わせは下記まで。



➤ 問い合わせ先

香川大学教育学部 社会科教育研究室 伊藤 裕康
TEL&FAX 087-832-1072（研究室）
E-mail : hitou@ed.kagawa-u.ac.jp